

講義コード	11C0121500	授業形態	講義	事前登録の有無	なし	担当教員	田中 裕之	開講期	第1期
科目名	現代資本主義論 1								
履修前提条件						備考			
授業の目的	まず第一に、資本主義経済を、資本（企業）を組織者とする自己組織系、自己発展系として明らかにします。第二に、資本主義が組織する社会関係を人類社会の農業社会以降の歴史としてとらえ、その特徴をコミュニティ・国家・商品経済の相互関係として把握します。第三に、資本主義経済の現代の特徴として、中国・アジアシステムを担い手とし、新情報革命と新産業革命を基盤として明らかにします。								
到達目標	第一に、資本主義経済の組織方法と歴史的動向を理解します。第二に、人類史の現代における到達性と基本課題を理解します。第三に、歴史的現在における世界の位置と同時に自分自身の位置を明確にして、現代世界の激変に対応できる自分自身の内的原理の基盤を作ります。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	授業外学修として、60時間以上を必要とします。各テーマごとに、レポート課題の準備、配布資料の内容のまとめや調査準備などを行います。それ以外に予習、復習として各自資料を見直し、全体の流れをつかみつつ、自分の問題意識を高めてください。								
授業計画	【第1回】 ガイダンス 【第2回】 資本主義の世界史的展開の概説（1） 【第3回】 資本主義の世界史的展開の概説（2） 【第4回】 商品流通と世界市場（1） 【第5回】 商品流通と世界市場（2） 【第6回】 貨幣と資本（1） 【第7回】 貨幣と資本（2） 【第8回】 世界市場システムと経済学（1） 【第9回】 世界市場システムと経済学（2） 【第10回】 世界の基軸産業と生産システム（1） 【第11回】 世界の基軸産業と生産システム（2） 【第12回】 現代情報革命とその人類史的意味（1） 【第13回】 現代情報革命とその人類史的意味（2） 【第14回】 現代情報革命と全体論（方法的諸問題） 【第15回】 全体のまとめ								
成績評価の方法	レポート（5割）、提出課題（3割）、授業への取り組み姿勢（2割）で評価します。								
フィードバックの内容	講義三回に一度を目途として、講義内の課題質問、意見を、リアクションペーパーとして書いて提出してもらい、主要な意見、重要な問題提起となる意見を紹介して、参加者の理解を高めていきます。								
教科書									
指定図書	『米中 世紀の競争』ジェフ・ダイヤー（日本経済新聞出版社）2015、『機械との競争』プリニョルフソン 他（日経BP社）2013、『人類五万年 文明の興亡』イアン・モリス（筑摩書房）2014、『人工知能は人間を超えるか』松尾豊（角川選書）2015、『経済の原理』ジェームズ・スチュアート（名古屋大学出版会）1993、『国富論』アダム・スミス（岩波文庫）2000、『資本論』マルクス（国民文庫）1964、『雇用・利子・および貨幣の一般理論』ケインズ（岩波文庫）2008、『入門経済学 第二版』マンキュー（東洋経済新聞社）2014、『経済学からなにを学ぶか』伊藤誠（平凡社）2015								
参考書	『最新・経済地理学』アナリーサクセニアン（日経BP社）2008、『ドル消滅』ジェームズ・リカーズ（朝日新聞出版）2015、『ポスト西洋世界はどこに向かうのか』チャールズ・カプチャン（勁草書房）2016、『EASTERNISATION』GIDEON RACHMAN（BODLEY HEAD）2016、『ユーラシア胎動』堀江則雄（岩波新書）2010、『歴史家が見る現代世界』入江昭（講談社現代新書）2014、『ザ・セカンド・マシン・エイジ』プリニョルフソン 他（日経BP社）2015、『シンギュラリティは近い』レイ・カーツワイル（NHK出版）2016、『2045年問題』松田卓也（廣済堂新書）2013、『岩田弘遺稿集』五味久壽（編）（批評社）2015								
教員からのお知らせ	現代資本主義論1と2の両方履修を薦めます。激動する現代世界に対応するために、常に新聞ニュース、インターネットの国際政治経済の時事的な問題に目を向け、柔軟な思考と自己の行動原理を培って下さい。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
その他									